

1. 単元名(活動名)：「つながり」から考える共生の社会					
2. 対 象：北海道立夕張高等学校 2年生進学クラス（12名） 授業者：佐藤 布由子	3. 学習領域				
		1	2	3	4
4. 教科との関連性： 英語Ⅱ	A多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	Bグローバル社会	相互依存	情報化		
	C地球的課題	人 権	環 境	平 和	開 発
	D未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
5. 実施時期：2014年3月	6. 時数：6時間				
7. 単元の目標（評価の観点を意識して設定）： ・日本とフィリピンとのつながりについて自分の考えを文章で表現することができる。 ・フィリピンの人になったつもりで、英語で自己紹介をすることができる。 【技能】 ・フィリピンの若者やフィリピンで活動している日本人に関心をもつ。 【関心・意欲】 ・フィリピンと日本が、さまざまな点でつながっていることを理解する。 【知識・理解】			8. キーワード： ・つながり 「もの」「人」「文化」 「歴史」「できごと」		
9. 単元について（教材観、単元設定の理由、開発教育／国際理解教育の視点等）： 生徒はフィリピンについてほとんど何も知らない。外国は遠く、自分たちとは関係がないと考えている生徒も多い。しかし、私たちの生活を意識して見直すと、外国との関わりがたくさんあることに気付く。 食べ物、衣類、身の周りの雑貨といった「もの」だけではなく、マスメディアによる情報や、災害時に瞬時に発信されるニュースなどを通じて、私たちの生活は世界のさまざまな人とつながっている。歴史的なつながりも無視することはできないが、英語の授業で実施する本単元では、とりわけ、フィリピンの若者およびフィリピンで活動する日本人に対する関心を深めるために、「人」を通じたつながりに重点を置く。 先進工業国日本と、途上国フィリピンとの関係を考えた場合、先進工業国である日本がフィリピンを支援していると考えられる生徒が多いと予想されるが、逆に、日本がフィリピンからの支援を受けたこともある。日本もフィリピンも近年ともに大きな自然災害に見舞われ甚大な被害をだしたことに触れ、国際的な支援にも目を向けたい。 最後に、たった1週間の滞在で知りえたことは限られており、これがフィリピンのすべてではないことを付け加える。					
10. 展開計画（6時間扱い）					
展開順	発問・働きかけ 主な学習活動と学習者（児童生徒）の意識		留意点など		

<p>1 時間目</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>フィリピンと日本とのつながりを考えよう</b> </div> <p>Q1 「Let's say "Hello" and "How are you?" in Tagalog.」</p> <p>A: Magandang hapon. (こんにちは。) Kumusta ka? (お元気ですか。)</p> <p>B: Mabuti naman. Ikaw? (元気です。あなたは?) A: Mabuti ri naman. ((私も) 元気です。)</p> <p>Q2 「フィリピンを地図に書き込んでください。」</p> <p>○【Worksheet 1】地図の中にフィリピンを書きこむ。各自が書きこんだ地図を共有し、各々の意識の中でのフィリピンを知る。</p> <p>Q3 「I've been to more than 10 countries. Choose the pictures I took in the Philippines.」</p> <p>○写真からフィリピンのイメージをつかむ。</p> <p>Q4 「Guess how many things from the Philippines I found at Yubari Seikyo?」</p> <p>Q5 「Guess what I found there?」</p> <p>○クイズを通じて、自分たちの住む地域にあるフィリピンのものを知る。</p> <p>Q6 「You have a piece of a puzzle. Please put a puzzle together, make a group, and put your desks together.」</p> <p>○配布された写真は、4枚で1つの写真となる。写真が完成するように4人組を作る。</p> <p>Q7 「Use your imagination and connect the things in your picture to Japan.」</p> <p>○グループごとに、それぞれの写真のものがどのように日本とつながっているかを連想し、その言葉を線で結ぶ。 ○グループごとにできあがったものを発表する。</p> <p>Q8 「You have an assignment. The deadline is the 3rd period.」</p> <p>Q9 「Let's say "Good bye" in Tagalog.」</p> <p>A: Paalam (さようなら) B: Paalam (さようなら)</p>	<p>Q2 フィリピンの地理的なイメージをつかむ。アジア、島国、フィリピンの大きさ等、生徒の関心を確認する。 ※日本語で指示を出し、授業をとおして <b>The Philippines</b> という単語を生徒が聞くことで、島国であることに気付かせる。</p> <p>Q3 フィリピンのモスク、教会、都会、田舎の写真の中に、中東のモスク、ヨーロッパの教会、その他世界各国の都会や田舎の写真を混ぜる。フィリピンのイメージをつかませると同時に、2時間目へつなげるような写真を選ぶ。 (写真は別添資料)</p> <p>クイズを通してフィリピンと日本のつながりを知り、今後の学習の展開の基礎とする。</p> <p>Q4. 6</p> <p>Q5. Bananas, Banana chips, pineapples, Okura, 2 Pineapple cans</p> <p>Q6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ happy さん (人つながり)</li> <li>・ JDR (災害時の緊急援助つながり)</li> <li>・ 日本語の本 (文化つながり)</li> </ul> <p>日本とフィリピンのつながりを示すような写真にする。完成した写真を全員で共有する。また、それぞれの写真は2時間目のクイズにもつながる。</p> <p>【Assignment 1】</p> <p>If I had the chance, ...に続く英文を書かせる。3時間目に、ストリートチルドレンの子供たちの If I had the chance, ...の紹介を行うので、その内容と生徒自身が書いた内容を比較させる。</p>
--------------	--	--

2 時間目

3 時間目

### 日本とフィリピンのつながりを知る

○タガログ語で挨拶をする。前時の復習。

Q1 「There are 16 pictures. I took them both in the Philippines and in Japan. Please group them into the Philippines and Japan. 1 person picks 2 cards by telling the reason when he or she puts the photos in the group.」

○フィリピンの中の日本を探す。

Q2 「Let's check the answers. Please turn the pictures over.」

Q3 「Who got all the answers right? Make sure the card you got wrong.」

○【Worksheet 2】意外だったもの、異なる方へ分類したものの、気付いたこと等をワークシートに書く。

Q4 「Let's start Jeopardy Quiz. First, I want you to choose the odd one. If you get the correct answer, you can choose the category and the point.」

○フィリピンの中の日本、日本の中のフィリピンを知る。

#### Jeopardy Quiz

- 4人グループの中で、誰が No.1~No.4 になるかそれぞれ決める。
- 最初のクイズは「Odd one out.」を行う。これは全員に解答権がある。写真の中からひとつ仲間はずれのものを探す。
- Odd one out. で正解した生徒は、「もの」「ひと」「文化」「歴史」「出来事」の 카테고리 と、挑戦する点数をひとつ選べる。
- 数字は、正解して得られる点数と問題の難易度を表す。  
①がいちばん簡単で1点、⑤がいちばん難しく5点。「もの」と「ひと」については、正解のあとに日本とのつながりを言えたら、点数が2倍になる。
- 各グループの No.1 の生徒は起立して、最初に選ばれたカテゴリ、点数の問題に答える。
- 正解するたびに、No.2 の生徒、No.3 の生徒と順番に起立して解答していく。

Things	People	Culture	History	Events
①	①	①	①	①
②	②	②	②	②
③	③	③	③	③
④	④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤

Q5 「Please work on the worksheet 2.」

○【Worksheet 2】全部で 25 のつながりを知った結果、意外だったつながり、または知らなかったつながり、気付いたこと等をワークシートに書く。

○タガログ語で終わりの挨拶をする。前時の復習。

日本とフィリピンで撮った写真を8枚ずつ用意する

ロイズ	トヨタ
ユニクロ	ミスタードーナツ
山頭火	ブリジストン
ヤクルト	無印

カードを裏返してできる絵

「フィリピンのもの」：スパゲッティ

「日本のもの」：年越しそば

フィリピンにあるものが日本にあり、同様に日本にあるものがフィリピンにもある。

Q4. Odd one out.

Choose one thing that is different from the others. (ひとつだけ日本で購入したものをに入れる。)

- ・カップラーメン、豆腐、バナナケチャップ、トッポ、トウガラシ、こんぶ、お菓子、マンゴーピューレ

質問は基本的に英語で行う。質問の種類によっては、写真を用いたり、3択クイズにしたりして、生徒が答えやすいようにする。この5つのカテゴリーにおいて、日本とフィリピンのつながりを知るような活動にする。

※東日本大震災の際には、フィリピンが様々な形で日本を支援したことを伝える。

※昨年台風ヨランダでは、日本が様々な形でフィリピンの復興に携わったということ伝える。

※日本でもフィリピンでも、大きな災害が起こったときには、国を超えた助け合いがあった。

Jeopardy Quiz は1時間では終わらないので、2時間目のときは、グループを変え、また0ポイントからスタートする。

※3時間目の Worksheet 3 については、時間内で終わらなければ宿題にし、4時間目に回収する。また、Worksheet 3 についても日本語で書いてもよいことにする。

<p>4 時間目</p>	<p style="text-align: center;"><b>フィリピンの人々と出会う</b></p> <p>・フィリピンの人になったつもりで自己紹介をしよう</p> <p>Q1 「Let's say "I am (Name)," "I am Japanese," and "Nice to meet you" in Tagalog.」</p> <p>○Ako si … (私の名前は…です。)</p> <p>○Hapones ako. (私は日本人[男]です。)</p> <p>○Haponesa ako. (私は日本人[女]です。)</p> <p>○Ikinagagalak kitang makilala. (お会いできて嬉しいです。)</p> <p>【イキナガガラック キタン グ マキララ】</p> <p>Q2 「Let's introduce yourself pretending as if you are the person of the picture you have.」</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>Self Introduction</b></p> <p>1. 配られた写真の人物について、その人になりきって自己紹介文を考える。</p> <p>2. 客観的な情報については、配られた紙の情報を用いてよいが、気持ちを表現するときは自分で想像して述べる。</p> <p>3. 使用しそうな英語表現は予め全員で共有する。</p> <p>・ I am ….</p> <p>・ I am …years old.</p> <p>・ I study ….</p> <p>・ I work as a ….</p> <p>・ My dream is …など。</p> </div> <p>Q3 「Let's introduce yourself. Each group has 6 minutes.」</p> <p>○【Worksheet 3】 聞いているグループは、発表についてメモをとったり、印象的だったことを書く。</p> <p>Q4 「Let's say "See you" in Tagalog.」</p> <p>○Magkita tayo uli. (またね)</p>	<p><b>【写真セットの内容とキーワード】</b></p> <p>①グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ LOOB さんの支援する家族</li> <li>・ 小林幸恵さん</li> <li>・ 学生ボランティア</li> <li>・ 現地のボランティア</li> <li>・ カラフナン</li> <li>・ ジュースパックの商品</li> <li>・ フェアトレード</li> <li>・ サトウキビ畑</li> <li>・ 学童保育</li> <li>・ ホームページの記事</li> </ul> <p>②グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青年海外協力隊の角藤さん、星野さん</li> <li>・ 特別支援学級での授業の様子</li> <li>・ 特別支援学校の先生</li> <li>・ 普通学級の生徒</li> <li>・ トライシクル (通学の様子)</li> <li>・ 校舎の写真</li> <li>・ 売店の写真</li> </ul> <p>③グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中村さん</li> <li>・ ユニカセさんでの食事</li> <li>・ フェアトレード</li> <li>・ ユニカセさんで働く若者たち</li> <li>・ ストリートチルドレン</li> <li>・ If I had the chance...のワークシート</li> </ul>
<p>5 時間目</p>	<p style="text-align: center;"><b>フィリピンの人たちとつながろう①</b></p> <p>・ 英語で自己紹介カードを書こう</p> <p>・ これまで学んだことについて作文を書こう</p> <p>○タガログ語で挨拶をする。前時の復習。</p> <p>Q1 「You're going to write a card to introduce yourself. If you don't recognize the letters, what will help you to understand?」</p> <p>Q2 「After writing your card, write an essay on what you've learned in the last 3 lessons. You can use Japanese.」</p> <p>○【Worksheet 4】 生徒がこれまでの3時間の授業をとおして感じたこと、学んだことを自由に日本語で書く。</p> <p>○タガログ語で挨拶をする。前時の復習。</p>	<p>※相手が特別支援学校の生徒である場合、どのような工夫をすると相手にわかりやすいか、伝わるだろうか等を考えさせたい。英語使用のみにとらわれず、相手の状況に合わせてコミュニケーションをすることを考えさせる。</p> <p>※学んだことの作文に関しては、英語にこだわらず、日本語を使用してもよいことにした方が、学習内容が深まると考えられるため、この時間は日本語で作文を書かせる。</p>

<p>6 時間目</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>フィリピンの人たちとつながろう②</b></p> <p>・ユニカセの青少年たちとのスカイプ交流の準備をする</p> </div> <p>○タガログ語で挨拶をする。前時の復習。</p> <p>○3時間目に書いた <b>Worksheet 3</b> から、ユニカセで働く青少年たちのことを振り返る。</p> <p><b>Q1</b> 「Let's make a name poem for those who work at Uniquease restaurant.」</p> <p>○ <b>【Worksheet 5】</b> ユニカセで働く青少年たちのために、皆で Name Poem を作る。出来上がったグループから発表する。</p> <p><b>Q2</b> 「Let's think about what we're going to interview with people at Uniquease restaurant playing bingo game.」</p> <p>○ <b>【Worksheet 5】</b></p> <p>①ユニカセの青少年たちに質問したいことを、4のマスにひとつずつ埋めていこう。</p> <p>②ひとりずつ順番にマス目に書かれたことを読み上げる。</p> <p>③同じ内容のことがマス目に書かれていたら、各自赤ペンで○をつける。</p> <p>④赤丸が4つのマス、全てについたら「ビンゴ」と言う。</p> <p>⑤ビンゴで出た内容をもとに、交流のインタビュー内容を決める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>6. タガログ語で挨拶をしてみましょう。</b></p> <p>○Magkita tayo uli. (またね)</p> </div>	<p>・インタビューの質問内容を考えると同時に、議論したいトピックについても生徒同士で考えさせたい。</p> <p>・この交流については、スカイプを用いて放課後に行う。</p>
<p>1 1. 評価方法</p> <p>・フィリピンの若者やフィリピンで活動している日本人に関心をもつことができたか。 <span style="float: right;">ぎ[グループ活動の観察][ワークシート①]</span></p> <p>・自分の知ったことを文章にして、表現しようとしているか。 <span style="float: right;">[ワークシート③④⑤]</span></p> <p style="text-align: right;">【関心・意欲】</p> <p>・日本とフィリピンとのつながりについて自分の考えを文章で表現することができたか。 <span style="float: right;">[ワークシート③④]</span></p> <p>・フィリピンの人について英語で自己紹介をすることができたか。 <span style="float: right;">[3時間目の発表]</span></p> <p style="text-align: right;">【技能】</p> <p>・さまざまな点で日本とフィリピンがつながっていることを理解することができたか。 <span style="float: right;">[ワークシート②]</span></p> <p style="text-align: right;">【知識・理解】</p>		
<p>1 2. 苦勞した点・改善点</p> <p>1時間目、フィリピンの写真を選ぶ活動は、すべてフィリピンの写真を用いて、フィリピンの色々な側面を見せることを目的とした。しかし、生徒の反応が少し薄かったため、例えば教会であれば、実際にヨーロッパに撮った写真も同時に混ぜることで、ヨーロッパ的な側面もあり、またモスクの写真については、実際に中東で撮ったモスクの写真を入れることで、多文化的な側面を強調できたかもしれない。そうすることで、フィリピンの教会とヨーロッパの教会の類似点や、中東のモスクとフィリピンのモスクの類似点を生徒自身が発見できたと思われる。</p> <p>2時間目の、フィリピンと日本の写真を分ける作業では、写真を見ると答えがわかりやすく、あっさりできてしま</p>		

うものが多い。しかし、そこは間違わせることを目的とはせず、生徒が写真をじっくりと見て考えることに意味があるので、わかりやすい写真をそのまま使用することにした。この活動については、生徒の意外性を突くために間違いを多く出させるように写真を差しかえることも可能である。帰国してから日本の写真を準備するとき、北海道の雪が写真に入ってしまうので、このような活動を行いたい場合は、予め日本から進出している企業を調べ、現地へ向かう前に日本で写真を撮っておくべきであった。

2、3時間目の日本とフィリピンのつながりクイズについて、早く正解することに気を取られ、また進め方のテンポが早いため、内容が薄くなることが懸念された。そのため、量を減らす、またはそう考えた理由を聞く等のアドバイスをいただいた。実際の授業では、改善のためクイズを正解するたびに簡単な解説をすることで、理解を深められるよう努めた。しかし、解説を加え、3択での解答をやめたことでゲームに予定よりも時間がかかり、1時間の予定が2時間かかってしまった。問題数の多さについては、生徒にできるだけたくさんのつながりを知ってもらいたかったので、数は減らさず2時間計画に変更した。授業では、2時間目を1時間目に得られたポイントの続きから行ったが、1時間目の時点で点数が開きすぎた場合に、生徒のモチベーションが下がってしまう。2時間目は残った問題でグループも新たに作り、全てのグループが同じ条件の0ポイントから始めた方がよかったと考えられる。

3つ4つと複数回答しなければならない問題については、完全解答にするのではなく、ひとつ正解するごとに1点ずつ得点を与える形の方がよかった。

### 1 3. 授業づくりのための参考資料・引用文献

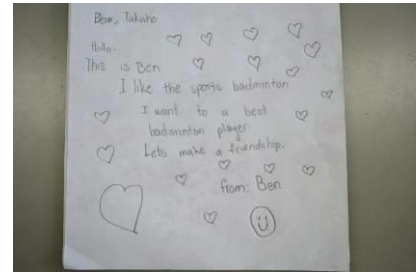
- ・大野拓司、寺田勇文編著『現代フィリピンを知るための61章』
- ・菅原秀幸、大野泉、榎屋詩野著『BOP ビジネス入門』明石書店、1999年
- ・チャンスの会編・訳『チャンスがあれば…ストリートチルドレンの夢』岩崎書店、2007年
- ・中村水名子『多民族・多文化共生の明日を拓く社会科授業』三一書房、2002年
- ・萩原康生編著『アジアの子どもと女性の社会学』明石書店、1996年
- ・ユニカセ冊子
- ・白地図 <http://www7.pioneer.co.jp/edu/portal/index.html>
- ・車椅子の写真 [http://www.scario.co.jp/store/images/item\\_images/13-578/13-578\\_i.jpg](http://www.scario.co.jp/store/images/item_images/13-578/13-578_i.jpg)
- ・フィリピンからの支援物資の受け入れ [http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/23/3/0325\\_16.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/23/3/0325_16.html)
- ・緊急・人道支援、国際緊急援助 [http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jindo/jindoushien2\\_3.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jindo/jindoushien2_3.html)
- ・ヤクルトホームページ <http://www.yakult.co.jp/saiyou/newgraduate/010kaigai/index.html>
- ・フィリピンの農林水産業概況 [http://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokusei/kaigai\\_nogyo/k\\_gaikyo/phi.html](http://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokusei/kaigai_nogyo/k_gaikyo/phi.html)
- ・NGO LOOB ホームページ <http://www.loobinc.com/org01.php>
- ・JDR 本部の谷口正弘専門嘱託職員からの提供資料

### 1 4. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）



生徒がフィリピンの特別支援学校へ、1回目の交流のために送った自己紹介カードの例。（4時間目）

フィリピンの特別支援学校から夕張へ届いた手紙



1度目の自己紹介カード交流のあとに生徒たちが書いた手紙と、お手玉。個人宛に手紙が届いたこと、またフィリピンの現地の先生も交流に積極的になってくれたようで、フィリピンの生徒たちが作成した絵を今後送っていただける予定である。



ユニカセさんとの交流前に送ったカード。(6時間目)

放課後のスカイプ交流で、パソコンの画面越しにユニカセの従業員が大切にカードを持ってきていて、生徒たちは喜んでいました。Assistant Language Teacher 以外に、外国人とあまり話す機会のない生徒たちにとって、非常に緊張したようで、交流が始まってからはあまり積極的になれなかった。次回の交流に向けては、生徒も授業者ももっとしっかりと準備をしてから、交流したいと考えている。





ユニカセさんとの交流に向けて、生徒が準備した質問

質問	話したい話題
Do you have anything to learn?	Do you have school festival?
Do you like Japan?	If you have, what is it like?
Do you know Hokkaido?	
What is your hobby?	In Japan, the places like Mt. Fuji or Tokyo Sky tree are famous. Could you tell me where the famous place in the Philippines is?
Where is your favorite place in the Philippines? Why?	
What is your favorite Filipino food?	
What Japanese food do you like?	
What do you want to do in Japan?	What are you going to do in the future?
What is the good thing or bad thing about Japan?	
What are you going to do this weekend?	What is your hope for your country? Is there anything Filipino people can do right now?
What do you do when you feel happy?	

15. 備考（授業者による自由記述）

◎1時間目の Assignment 1 で生徒が書いた内容。もしチャンスがあれば…、の続きを書いたものです。

If I had the chance, I would go to listen to live music. (もしチャンスがあれば、ライブミュージックを聴きに行く。)

If I had the chance, I would go abroad. (もしチャンスがあれば、私は外国へ行く。) (同意見複数)

If I had the chance, I would go to Italy. (もしチャンスがあれば、私はイタリアへ行く。)

If I had the chance, I would go to France. (もしチャンスがあれば、私はフランスへ行く。)

ストリートチルドレンの子どもたちが、「もしチャンスがあれば」したいことをまとめた本について学習する前に、生徒自身について書かせたが、外国へ行きたいというものが多かった。ストリートチルドレンの子どもたちの導入については、フィリピンで授業者が実際に見てきたものではなかったため、生徒の印象としても弱かったようである。

◎2時間目、3時間目の Worksheet 2 の記述。生徒には感想や新しく知ったことを書かせました。

Things①

- ・マンゴーの木が思ったより大きかった。
- ・マンゴーをフィリピンから輸入していると初めて知った。
- ・バナナだけでなく、色々なものがフィリピンから輸入されていると思った。

Things②

- ・フェアトレードを初めて知った。普段は気にしたことがなかったので、今度から気をつけたい。(同意見複数)
- ・夕張生協にもフェアトレード製品が売っていた。
- ・今度フェアトレード製品を見つけたら、買ってみようかなと思った。

Things③

- ・旅行者が手荷物として車椅子を現地へ運ぶ活動はよい。(同意見複数)
- ・夕張にもこの活動に関わっている人がいるとわかった。

Things④

- ・バス（ジプニー）に日本の企業のもの（エンジン）が使われているのがすごいと思った。(同意見複数)



#### People①

- ・ストリートチルドレンの問題と向き合い、走るコツを教えに来ていた高橋尚子さんを尊敬します。（同意見複数）
- ・ストリートチルドレンにとって、逃げ足が速いことは大事なことなんだと思った。でも、そこまでしないと生きていけないかもしれないのは、なんだか複雑な気分になる。

#### People①と②

- ・フィリピンと関係のある日本人がけっこういることを知った。

#### People④

- ・被災地支援のためのコンサートが行われているのを知った。（同意見複数）

#### People⑤

- ・Happyさんが、東日本大震災のとき折り鶴を折って日本に送ってくれた話を聞いて感動した。フィリピンの人も日本のことを考えていてくれて驚きました。（同意見複数）
- ・折り紙は日本文化なのに、折り鶴を折って送ってくれたのが印象的だった。
- ・Happyさんは、日本人の私たちよりずっと日本の復興のために活動していると思った。

#### Culture①

- ・フィリピンにも吉野家があって驚いた。（同意見複数）
- ・クイズに一発で答えられて嬉しかった。
- ・写真が、全然吉野家に見えなかった。
- ・フィリピンの吉野家も日本と同じ味なのか、フィリピン人の口に合うように変わっているのか気になる。
- ・フィリピンにも吉野家やラーメン店（山頭火）、ミスタードーナツがあるんだと思った。

#### Culture②

- ・折り紙を勉強していると思わなかった。（同意見複数）

#### Culture③

- ・日本語を勉強する本があって驚いた。（同意見複数）

#### Culture⑤

- ・日本のマンガが違う言葉で書かれているのが面白かった。（同意見複数）
- ・タガログ語が面白かった。

#### Culture⑤

- ・日本のキャラクターがたくさん広まっていて驚いた。（同意見複数）

#### History①

- ・日本の教科書にはフィリピンのことはほとんど何も書かれていない。
- ・日本とフィリピンには色々な関係や交流があるのに、教科書で取り上げられていることが少ないのは、少し残念な気がした。

#### History②

- ・フィリピンの歴史教科書に日本のことがたくさん書かれていてびっくりした。（同意見複数）

#### History③

- ・フィリピン人の戦争の死者数の100万人は非常に多いと思った。（同意見複数）

#### History④

- ・元慰安婦の人に、日本は謝るべきだと思った。しかし、謝ると他の場所で問題が起こるのかと思った。

### History⑤

- ・フィリピンの生徒が戦争のことについて、過去のことは過去であると話していたのを知り、少し気が楽になった。もっと話してみたいと思った。
- ・フィリピンの生徒が、過去のことは過去であると言っていたことに感動した。（同意見複数）
- ・フィリピンの方々はずごくいい人だと思った。
- ・前向きな考えだと思った。
- ・History④の元慰安婦の方の想いを考えると、過去は過去と思うフィリピンの生徒がいる一方で、戦争を実際に体験した人は、そう思うことはできないとわかった。
- ・フィリピンの若い世代の人が、「過去は過去」と言っていて、意外だった。

### Event①と②

- ・日本が大変だったとき、フィリピンは支援してくれていた。（同意見複数）
- ・とてもありがたいと思ったし、こういう風に国同士がお互いに助け合うことは重要なことだと思った。

### Event④

- ・ヤクルトおばさんがフィリピンにもいるんだと思った。（同意見複数）
- ・フィリピンにヤクルトがあるとは思わなかった。
- ・日本の職業（ヤクルトおばさん）がフィリピンで役立っていてくれて嬉しい。でも私はヤクルトを売り歩いているのを夕張で実際には見たことがない。

### Event⑤

- ・国際援助では、いろんな人たちが助けていると思った。

### その他自由記述

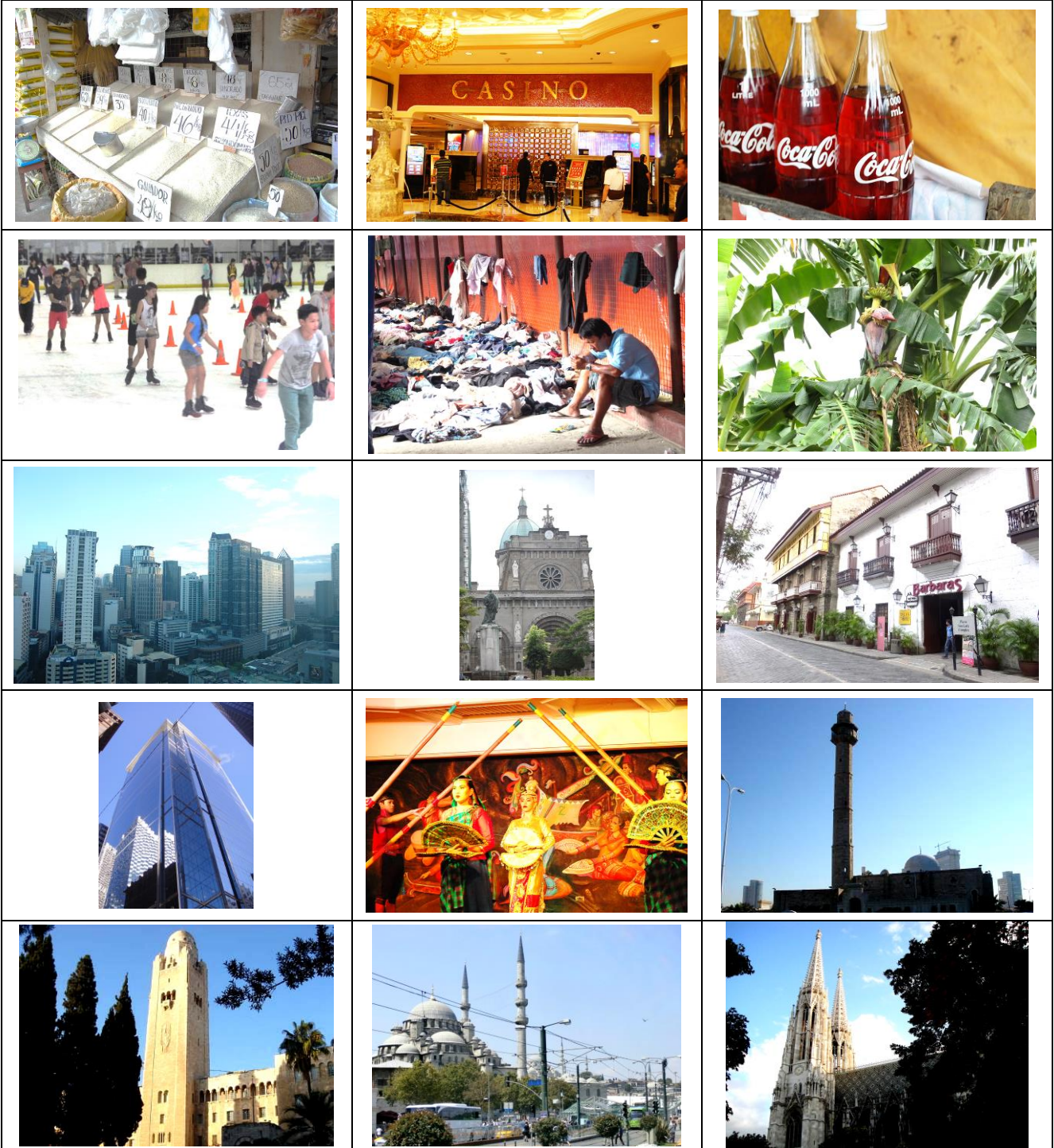
- ・日本にあるような店がフィリピンにたくさんあってびっくりした。（同意見複数）
- ・フィリピンにミスタードーナツや山頭火があって驚いた。（同意見複数）
- ・年越しそばやパスタのように、国は違うのに似たような文化があることに驚いた。（同意見複数）
- ・ミスタードーナツは外国では違うデザインで面白かった。
- ・スパゲッティを食べるなんて、洋風だなと思った。
- ・漢字・平仮名・カタカナ表記があり興味深かった。

2、3時間目のゲームでは写真を用いて行ったため、生徒に印象深かったようで、様々なカテゴリーについて感想を書いていた。しかし、ゲーム性が高く、説明も簡潔であったため、学習の深まりという点では弱かったと感じた。高校生の学習としては、広く浅い内容であったかもしれないが、英語を用いるため深いところまで追求して行くには限界を感じた。

生徒の感想をまとめることで、生徒がどのカテゴリーのどのような内容に興味を持ったのかがわかりやすかった。

生徒は、フィリピンについて知識が深められたことを単純に好奇心として楽しんでしたが、何よりも手紙の交流を通して、外国から自分宛に手紙が届いたこと、さらにはスカイプを用いて、海外と簡単に交流できることに喜びを感じていた。

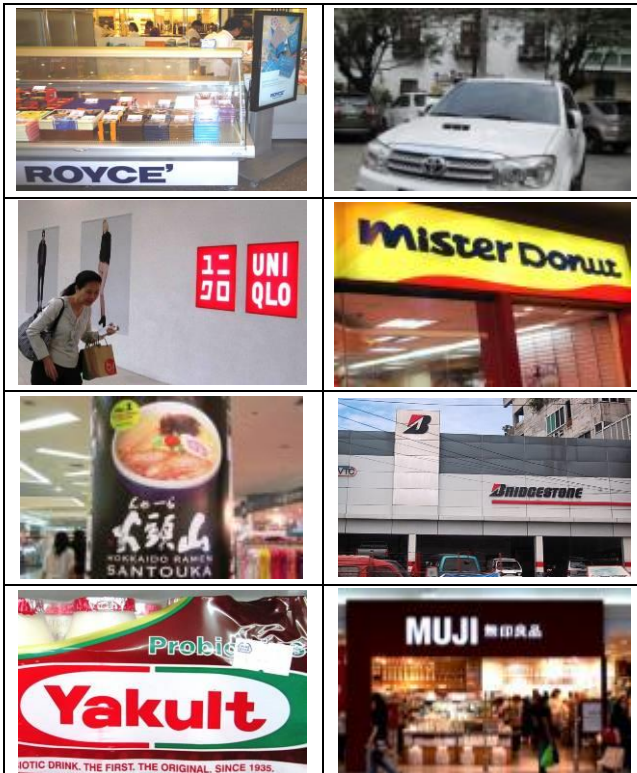
【1時間目 写真からフィリピンのイメージをつかもう】





【2時間目 フィリピンと日本で撮った写真16枚】

フィリピン



日本



カードを裏返して  
完成する写真



【2時間目 カード一覧】（「もの」と「ひと」については、つながりまで言えたらポイントを2倍にする。）

	カード	質問内容	日本とのつながり
もの	① マンゴーの木	What tree is this?	○輸入
	② フェアトレード	What is the difference between these dried mangos?	ひとつはフェアトレード。 ○輸入
	③ 車いす	What is this?	○飛んでけ！車いすの会 旅行者等が手荷物として車椅子を現地へ運ぶ ○日本の高校生が修理をし、それから必要としている国へ送る
	④ 日本で言うバス（ジプニー）	What is this car for? (Taxi or Bus)	○輸出、いすゞのエンジンを使用
	⑤ PCG	Guess what PCG stands for?	○石油を日本へ運ぶ船の安全のため、沿岸警備を行う

ひと	①	高橋尚子さん	Who is this woman?	○ケソン市でストリートチルドレンの問題と向き合う認定 NPO 法人アジア日本相互交流センター (ICAN) の活動現場に参加し、子供たちに速く走るコツを伝授した。足を高くあげ、腕を振って、頭を下げる。
	②	辻佳織さん	Her name is Ms. Tsuji. She is from Hokkaido. What does she do? 1. Teacher 2. Nurse 3. Farmer	○日本からフィリピンへ青年海外協力隊として支援活動。
	③	Richard さん	He is Filipino. Name 3 languages that he speaks.	○日本への留学経験がある。
	④	高橋エスミさん	Her name is Esmie Takahashi. What do you imagine from her name?	○結婚して日本に住んでいるフィリピン人。 ○被災地支援のためのコンサートも行った。
	⑤	Mr. Happy	His name is Mr. Happy. He is Filipino. What is his job? 1. Teacher 2. Nurse 3. Runner	○東日本大震災のときには、折鶴を折り日本へ送った。世界一周をする船で、日本へ届けてもらった。 ○チャリティマラソンに参加する。日本からスタートする。活動中に、日本で集めたものは、日本の貧しい子供、または東日本大震災の被災地の子供へ送る。 ○日本のお話 (月とうさぎ) をフィリピンの子供たちに教える。
文化	①	レストラン	This is a restaurant. Guess the name and the place where I took this picture.	フィリピンの吉野家
	②	本	What is this book for?	おりがみを勉強する本
	③	本	What is this book for?	日本語を勉強する本
	④	マンガ	Guess 2 comic books I bought at the bookstore in the Philippines.	日本の漫画が、タガログ語に翻訳されていることを知る。
	⑤	日本のキャラクター等	Guess 4 Japan original characters and 1 traditional doll I found in the Philippines.	日本のキャラクターがフィリピンにもあり、また文化的なものも売られていることを知る。
歴史	①	日本の歴史教科書の記述	Tell me 3 things about the Philippines written in the History	日本の教科書でフィリピンがどのように記述されているか

		book in Japan.	
	② フィリピンの歴史教科書の記述	Tell me 1 thing about Japan written in the History book in the Philippines.	フィリピンの教科書で日本がどのように記述されているか
	③ 戦争中の日本人とフィリピン人の死者数	During the second world war, half a million Japanese people died in the Philippines. Guess how many Filipinos died during the war?	100万人
	④ ロラ・マシンさん 元慰安婦について	She is lola Masing. She was forced to be a sex slave by Japanese soldiers. She was only 13 years old. Guess what she wanted from the Japanese Government. 1. Apology 2. Money 3. Both	元慰安婦のロラ・マシンさんが日本政府に求めたもの
	⑤ フィリピンの生徒のインタビューから	What did these students say about Japan during the Second World War?	たしかに戦争中に日本人は恐ろしいことをしたが、今となっては過去のこと。今、友好関係が築けているのでよい。
出 来 事	① 写真でフィリピンから支援された地域を探す	Find 2 prefectures where Filipino people supported the Tohoku Earthquake?	岩手県と宮城県
	② フィリピンからの受けた支援の内容	Name 3 things that the government of the Philippines did to support Japan.	① Charity ② Aid ③ Medical Team (1) 宮城県に対する支援物資：食料品セット 1,500 個、カップ麺 12,000 個及びバスタオル 1,000 枚 (2) 岩手県に対する支援物資：マット 1,000 枚及び防塵マスク 5,000 枚
	③ 空港の写真	What was built with Japanese ODA?	ODA (Official Development Assistance)というつながり
	④ ヤクルトがフィリピンで成功した鍵	Guess 2 keys for the success of Yakuruto in the Philippines?	・ nutrition (栄養面) ・ employment (雇用)
	⑤ 国際緊急援助の写真	This is a picture of JDR. JDR stands for Japan Disaster Relief Team. It has 4 teams. What are they?	・ Rescue Teams ・ Medical Teams ・ Expert Teams ・ Self-Defense Force Units

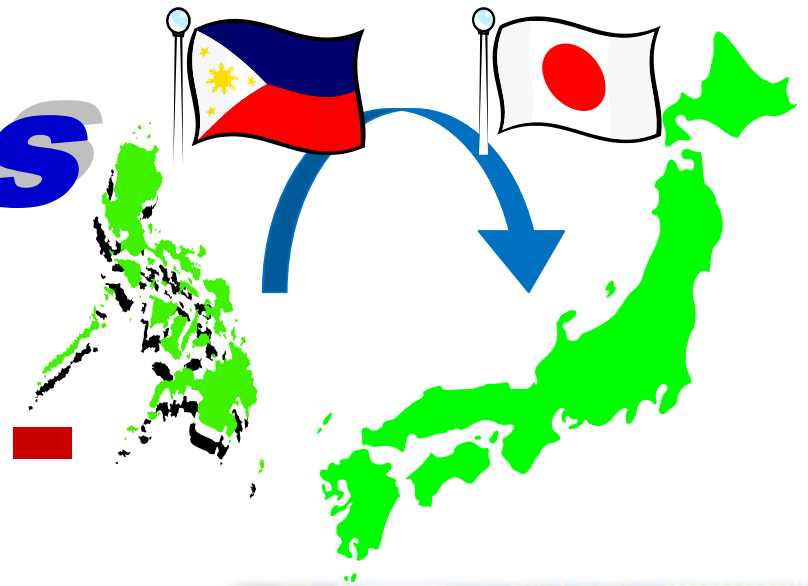
【2時間目 カードの写真一覧】（数字カードの裏の写真一覧）

Things	People	Culture	History	Event
	※高橋尚子さんの写真の掲載は割愛させていただきます。（JICA 北海道）		日本の歴史教科書 	
				別添資料
			写真なし	
		※ポケモンとドラえもんの漫画の写真掲載は割愛させていただきます。（JICA 北海道）		
				



Jeopardy Game の  
Event②で使用するシート

# 3 things



1. Ch - - - - -

2. A - -

3. M - - - - - T - - -



### 【3時間目 自己紹介カード】

#### LOOBさん

グループ①-1	LOOB代表 小林幸恵さん
<p>私は北海道の北見市出身です。私の父の故郷は、みなさんが住む夕張です。</p> <p>LOOBの意味は、”Love Our Own Brethren”です。私は、大学卒業後、フィリピンに来てボランティアをしていました。しかし、フィリピンへの潜在的な偏見や、現地の視点を取り入れない一方通行のNGO活動にジレンマを感じました。そこで私は、3人のフィリピン人とともに自ら行動していくことにしました。設立者の4人が共にしていたビジョンは、「共に汗を流し、学び合い、感動を共有できる環境を作り、フィリピンと日本の架け橋となる」そして「<b>貧困者の自立支援に青少年の参加の促し、社会に貢献できる人材を育てる</b>」ことができる団体になることでした。</p> <p>2001年6月、フィリピン政府から非政府組織（NGO）の法人格を取得し、日本人14名、フィリピン人のボランティア5名が集まりLOOBの活動が正式にスタートしました。</p> <p>先進国の生活は、開発途上国の経済搾取の上に成り立ってきた一面があります。現地の生活や人々の価値観というものは、なかなか見えてきません。フィリピンの典型的なイメージといえば、まだまだ「バナナ、危険」といったものが主流ではないでしょうか。日本で伝えられる情報は偏りがちで、同じアジアの隣人として顔の見える交流がまだまだ未熟なように思います。</p> <p>私たちはワークキャンプだけではなく、教育支援や生活支援などの活動も行っており、どの活動においても、ホームステイや家庭訪問を通して、社会の核であるファミリーからその地域社会の現状を把握するようになってきました。そのような活動からフィリピン人の家族観や他人との絆を強め、精神的な豊かさを重んじる価値観が人、コミュニティ、国全体の発展に向けて大切な要素であることを学ばせてもらいました。日本は、物質的に豊かでもいじめや自殺といった心の問題が増えており、解決の糸口さえ見つかっていません。フィリピンの質素な生活を体験し、人々と交流・協力することで、物質至上主義によって忘れがちになっている精神的な豊かさについて考えていくことが、結果的にこれからの日本社会を下支えする新しい価値観となればと思っています。</p>	

グループ①-2	現地スタッフ
<p>私の名前は、エイプリルです。23歳です。活動は毎回楽しく、たくさんのことを学んでいます。以前は、シャイだった私も今では自分に自信を持っています。LOOBに関わって私の人生は変わりました。2011年に私はLOOBの教育支援を受けて、夢だった大学に行けるようになり、2013年4月に卒業することができました。今年の6月より、LOOBのスタッフとして働くようになりましたが、学童保育のお手伝いをしたり、外から研修に来る人のサポートをしたり、通訳をしたり、さまざまな活動に携わっています。</p> <p>私は、イロイロ市のカラフナンの概要を説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市内40万人以上のごみ全てを受け入れている。</li> <li>○地域住民は、ごみを拾い、ジャンクショップ（リサイクル業者）に売って生計を立てている。</li> <li>○危険物が散乱する劣悪な衛生環境の中、子供たちもごみを拾っている。</li> <li>○ごみ山で働く13歳までの子供たちは132人に上る。</li> <li>○ごみ拾いしか収入がない世帯は、全体の41%。</li> <li>○1日の平均日収は75～100ペソ（172円～230円）。（1ペソ＝約2.3円（2014/02/27））</li> </ul>	

○ウェストピッカーの人数は 1000 人以上いる。

次に日本から来ている、ケンスケが LOOB の活動の一部を紹介します。

グループ①-3	日本からの学生ボランティア
<p>僕は神戸大学の学生です。1年間休学して、昨年の夏からフィリピンでボランティア活動に従事しています。こちらで、さまざまなボランティア活動に携わってきましたが、大切なことは自分たちの価値観を押し付けないことです。日本人の感覚だと仕事を早く片付けたいと思いがちですが、フィリピンの人は明日でもいいでしょう、ゆっくりやろう、というペースのこともあります。</p> <p>今日は皆さんに、LOOB の活動のひとつを紹介します。クイズ形式で行いたいと思うので、積極的に参加して下さい。全問正解の人には、豪華プレゼントがあります！</p>	
<p>Q1 スモークーマウンテンとはどんな意味？</p>	<p>①ごみを肥料にしてできた山のこと ②ごみを燃やすときに上がる煙のこと ③ごみが自然発火し、煙があがること</p>
<p>Q2 LOOB では裁縫プロジェクトを行っています。何を作っているでしょう。</p>	<p>①服 ②バッグやお財布 ③傘</p>
<p>Q3 Q2 の製品の材料は何でしょう？</p>	<p>①ペットボトル ②空き缶 ③ジュースパック</p>
<p>Q4 ジュースパックでバッグやお財布を作るために、いくつかの仕事が生まれるでしょう？</p>	<p>数を推測してみてください。正解は3つ。 ①ごみを集める人 ②ごみを洗う人 ③裁縫をする人</p>
<p>上述のような方法で、大人への生計支援を行っています。</p>	

グループ①-4	ロクサンちゃん
<p>私の名前は、ロクサン・サリノ。8才。ここはカラフナン。イロイロ市のごみが集まって山みたいになっているの。私はここで生まれて、ここに住んでいるの。私のお父さんもそうよ。でもお母さんは、マアシンで生まれて、サトウキビ畑で働いていたの。それだけでは食べていけないので、ここの親戚を頼って引っ越してきたの。そして、お父さんと出会い、私たち3人の子供が生まれたの。お父さんとお母さんの仕事は、waste picker といって、缶やびんを集めているの。お母さんが言ってたんだけど、サトウキビ畑での収入よりも多くなったみたい。（大土地所有制のため。1960年代に高収穫品種を導入し、生産性の向上と農業の近代化を促した結果、種もみ・肥料・農薬など多くの資金が必要となった。そのため、中小農民は、大土地所有者や政府から資金を借りざるをえない。負債を返済できない農民は、土地を手放して小作農になるか、離村するかに追い込まれた。）</p> <p>私は朝8時に学校へ行き、11時に家に帰って来てご飯をたべるの。また13時に学校へ行き、夕方帰ってくるわ。帰って来てからは、ご飯を炊いたり、お皿を洗ったりしてお母さんを手伝うの。寝る前には宿題をするわ。私は国語の勉強が好きよ。</p>	

誕生日は家族皆が集まって祝いするの。スパゲッティは欠かせないわ。そして毎週日曜日には教会に行くの。

台風ときは、玄関は水没したけれど、居間の部分は大丈夫だったの。風で屋根の一部が飛ばされてしまって怖かったけれど、お父さんが直してくれたの。

私たち兄弟姉妹は大きな夢があるの。私は看護師になりたいわ。妹のレイアンは医者になりたいの。弟のライアンは陸軍で働きたいと言ってるわ。

私は一生懸命に勉強をして、きっと看護師になるわ。

### 特別支援学級

#### グループ②-1

#### 星野百合子先生（青年海外協力隊）

私の名前は、星野百合子です。イロイロ市のマアシン中央小学校で、特別支援学級教諭として働いています。特別支援学級は、49名の知的障害学級と17名の聴覚障害学級があります。6歳から30歳までの生徒が通っています。通学条件は2つあります。1つは、送迎または自力通学ができること、2つ目は制服が買える人です。この条件をクリアできるのは、お金持ちのみです。毎日続けて通学できる生徒は少なく、1日に15人くらいの生徒が教室にいます。生徒は両親に感謝して学校に通っています。子供たちは日本が大好きです。歌遊びや折り紙が人気です。

#### グループ②-2

#### 現地のフィリピン人の先生

私の名前はジェニリンです。私のクラスには6人の生徒がいます。6人のうち、2人だけがアルファベットを認識します。22歳のダウン症の彼女は、言葉を発することができません。仲間に入るように声をかけても、なかなか入ってこられない生徒もいます。

今日は形を勉強しようと思います。歌を歌いながら、ジェスチャーを使って形を勉強したいと思うので、みんなも一緒にやってください。

（教師からこの役割の生徒に指導する。）

#### グループ②-3

#### 普通学級の生徒

私の名前はララ。私の大切なものは、家族、神様そして友人。私はトライシクルで学校に通っているわ。私の友達もみんなそうよ。私の将来の夢は crew ship になることよ。crew ship は船の上でのサービス業で、ウェイトレスやバーテンダーとして働くのよ。私の好きなお菓子は、チョコレートよ。トブラローネは日本でも売っているかしら。フィリピンでは11時と3時にスナックタイムがあるの。そのときに、売店に行っておやつを買うのよ。私たちのじゃんけんでは、グーは batobato。チョキは gunting。パーは papel。日本でも最初はグーで始めるみたいだけど、私たちも batobato で始めるのよ。私は日本へ行ったら雪を見てみたいの。日本のアニメのワンピースが好きよ。

#### グループ②-4

#### 角藤千亜紀さん（青年海外協力隊）とラリン・ガヨさん

角藤さん：日本から見ると、フィリピンの台風はいちばん被害が大きかったレイテ島のタクロバンに焦点が当てられています。パナイ島の人たち、例えば、コンセプション、バロタックの人たちはニュースから取りこぼされた人たちです。そういう所でも被害はあり、大変でした。日本から来た先生たちは、

現地に来たのだから、ニュースにならない人たちのことも考えてほしいと思います。私のホストマザーに、台風のときの状況をお話してもらいます。

**ガヨさん**：朝は、風もなくとても静かでした。12時になり、私は黒い煙だけが見えて、窓からはほかに何も見えませんでした。それから、風がものすごい音で吹き、窓から外を見ると周囲の家の屋根はありませんでした。近所の住人のひとは家をなくし、私の家へやってきました。私の家は石造りなので助かりました。

次の日になって、外を歩くと、木々が倒れ、周りの多くの家はなくなっていました。壊れた家は、竹でできた家でした。貧しい人ほど川沿いや山奥などに住み、天災の被害に遭いやすいです。台風で家をなくし、豚小屋に住み続ける人もいます。

1ヶ月半、私たちは電気のない生活をしなければなりませんでした。

## UNIQUEASEさん

### グループ③-1

### 中村八千代さん

私の名前は、中村八千代です。私は、20歳のとき胃がんで母を亡くしました。そのことで日常の食生活に興味を持ち始めました。また、同時に父と妹を守らなければならないと思いました。私は2年半、留学をしていましたが、帰国したときに父が多額の借金をかかえていました。26歳で4億円もの借金を背負うことになり、そのとき私は、全てを失いました。

フィリピンに初めて来たとき、NGOの支援を受けていても、将来の見えない子供たちがたくさんいることを知りました。私は、自分が経験したような悔しい思いを子供たちにさせたくないと思いました。そこで、実際に彼らに職業を提供できるようになればと思いました。NGOが救いだし、教育を受けられた幸運な者も、さまざまな理由から大学を卒業することができるのはごくわずかです。しかし、現実には大卒でなければ就業機会ほとんどありません。そこで、自立への道を考慮した結果、**Social Enterprise** (社会的企業) ソーシャル エンタープライズ しかないと感じました。社会的企業とは、ボランティア精神を大事にしたNGOやNPOと、利潤を追求するビジネスとのちょうど中間的な存在です。

レストラン運営の中心となっているのは、貧困層出身者の中でも特にやる気や責任感の高い青少年スタッフたちです。彼らに払うお給料の一部は彼らの自立のための貯金として会社で保管しています。自分で稼いだお金で学校に戻り、独立できるようになってほしいと思っています。

### グループ③-2

### ユニカセで働く青少年

私の名前はレアです。ユニカセの青少年スタッフの一人です。私は17歳で突然父を亡くし、大学進学を断念しました。幸運にも経済的なサポートを受けることができ、ユニカセで働く機会を得ました。中村さんは、ユニカセのスタッフである私たちにとって「ママ」です。私たちの人生を輝かせてくれたママに、本当に感謝しています。

ユニカセの料理は、LOHASやスローフードを意識し、工夫を凝らしています。また、彩りの良い健康なお料理を提供するため、油の使用をなるべく控えています。例えば、このような料理を出しています。(写真を紹介する) 私のいちばんのおすすめは、まぐろのカルパッチョです。

店頭では、フェアトレード製品の販売も行っています。私は、お食事だけでなくフェアトレード製品を購入して下さるお客様にたいへん感謝しています。貧困地域の人たちにとってこの売り上げは大きな助けになります。

す。

ユニカセでは、私たちのようなフィリピン人の青少年トレーニングのほかにも、日本の青少年に向けたスタディツアーを行ったり、学生インターンを受け入れたり、フィリピンと日本をつなぐ役割も果てしています。

※LOHAS (Life of Health and Sustainability、健康と持続可能性の、またこれを重視する生活様式の略。)

※スローフード (その土地の伝統的な食文化や食材を見直す運動、または、その食品自体を指すことば。)

### グループ③-3

### ストリートチルドレンの子供たち 1

僕の名前は、メルヴィン・パスクア。16歳。

**チャンスがあれば、学校にちゃんと通って卒業したい。**そして、だれかのためになることをしたい。僕はマニラの郊外の州で育った。父さんは配管工で、母さんは野菜の行商をしていた。貧しかったから、ぼくも、ほかの11人の兄弟も、学校へ行かせてもらえなかった。

だから、僕はバスに乗って、マニラへ職探しにきたんだ。でもマニラで、僕はドラッグ中毒になってしまった。レストランで残飯を恵んでもらって、防波堤の上で眠ってた。

あんまり飢えると、腹に激痛がくるけど、シンナーをすうと感じなくなるんだ。学校に通って卒業できたらと思う。僕はNGOに助けってもらって、中毒から立ち直れた。

今は、コンピューターエンジニアになりたいっていう夢もある。卒業したら、僕みたいな貧しい子供たちを助けて勇気づけてあげたい。

### グループ③-4

### ストリートチルドレンの子供たち 2

私の名前は、ダイアナ・エスコバル。14歳よ。マニラに住んでいるの。

**チャンスがあれば、子供たちに自分にも権利があることを教えてあげたい。**そうすれば、ひどい目に遭わされなくてすむから。ストリートには、たくさんの子がいる。ぼんびきに売られた子もいるし、ヤクザの手先になって、万引きを繰り返している子もいる。みんな自分には権利があるってことを、知らないんだ。こんな大事なことを、私も小さいころは知らなかったもの。何年も、売春宿の密集する地区に住んで、花売りをやってた。テニスコートのボール拾いもした。シンナー遊びもね。食べ物やお金ほしさに物乞いをして、警察に追われたこともある。でもいつだって、ちゃんと逃げたわ。食事は1日1回。時には、ゴミ箱から拾って食べたけど、腹ペコだったから平気だった。

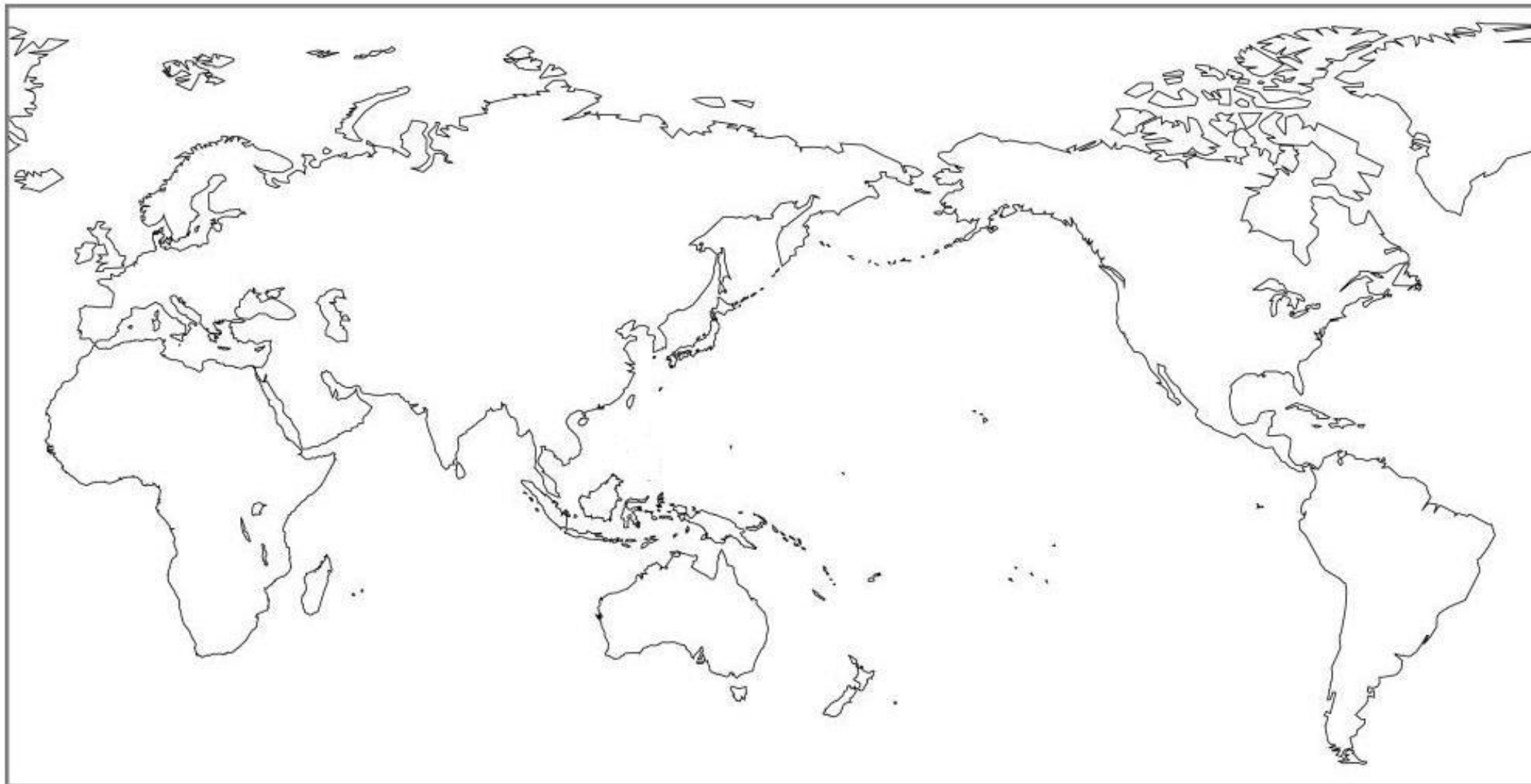
私の他にもたくさんの子供が、チャンスがあれば…と思っているわ。いくつか紹介するわ。

## 【5時間目 Name Poem の例】

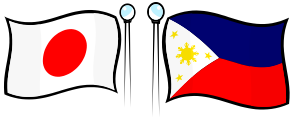
○ユニカセ代表の中村八千代さんの Name Poem を作成した場合。縦に読むと名前になる。

Y	is	for	Yummy.
A	is	for	Amazing.
C	is	for	Cheerful.
H	is	for	Happy.
I	is	for	Incredible.
Y	is	for	Young.
O	is	for	Organic.

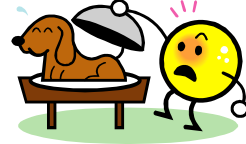
Draw the Philippines on the map.







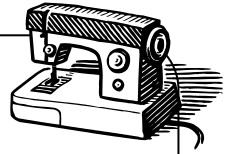
# The Connection Between Japan and the Philippines!



 Write down your new knowledge and the unexpected discoveries you found.



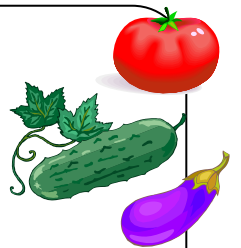
# LOOB



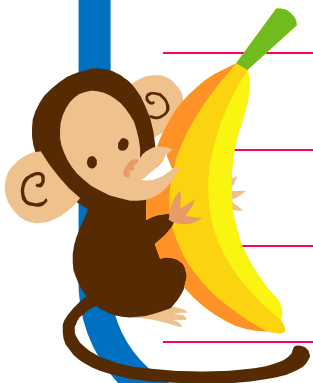
# Special School



# UNIQUEASE

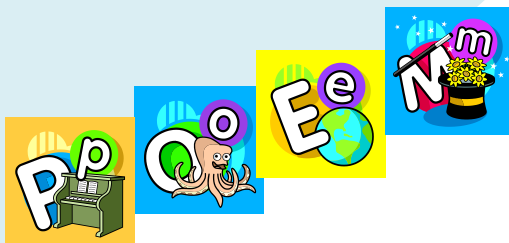


# Let's write what you thought

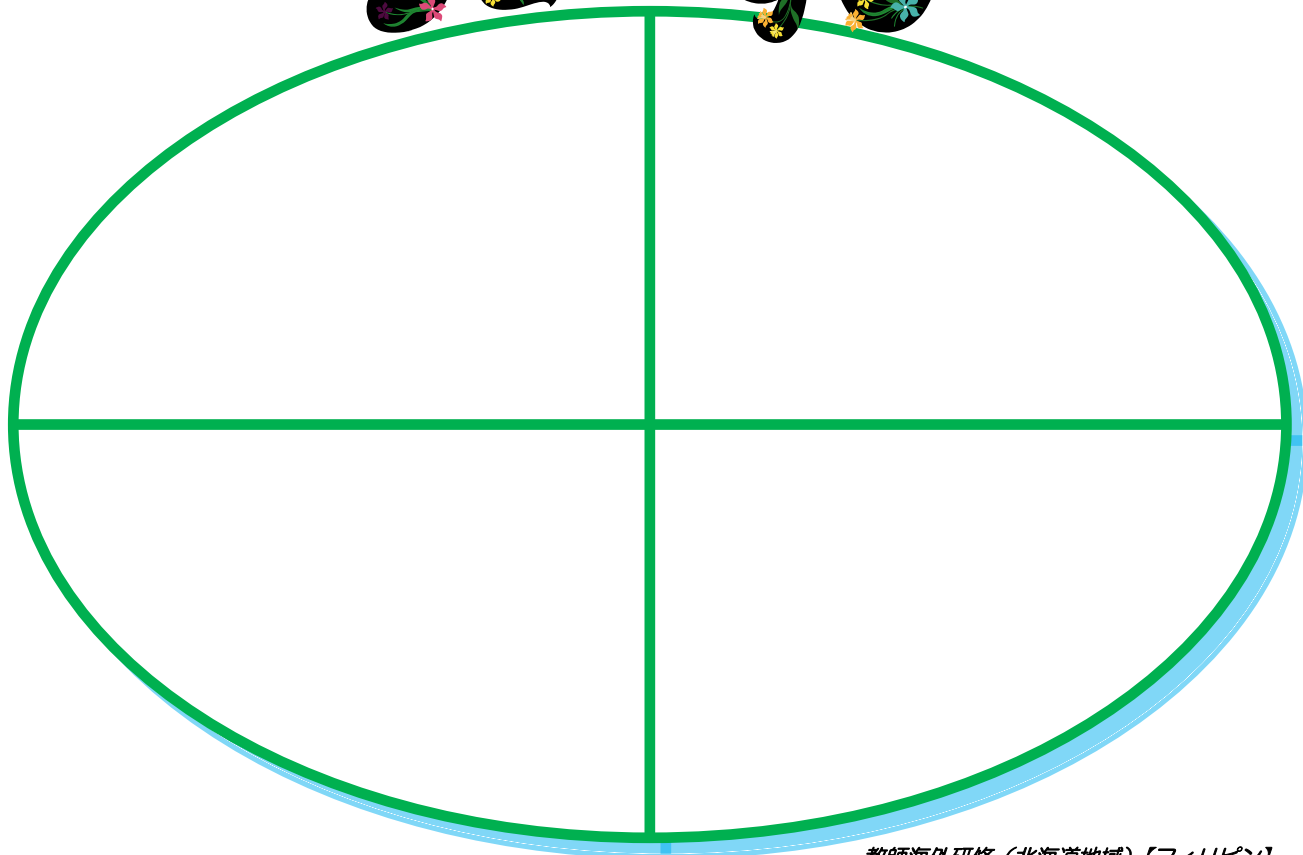


Handwriting practice area with ten horizontal lines.

Name \_\_\_\_\_



**BINGO**



Assignment 1

Name \_\_\_\_\_

If I had the chance,

Draw your face here😊

